

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3578100434		
法人名	社会福祉法人 友愛会		
事業所名	グループホーム阿東園		
所在地	山口県山口市阿東地福下286番地1		
自己評価作成日	平成25年8月28日	評価結果市町受理日	平成26年1月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai gokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=35
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれ住み慣れた地域で、職員と利用者が協力し合い、ゆっくりと安心して過ごせるよう支援しています。利用者一人ひとりの思いをくみ取りながら、職員と一緒に調理、掃除、洗濯物干し、洗濯物畳み、物作り等、できる事を支援し感謝の気持ちを伝えています。地域の祭りや行事に参加する他、毎月、先生を招き生け花も楽しんでいます。又、年1回「家族会」を開催し、職員との意見交換や家族同士の交流を図り、楽しい1日を過ごせるように工夫しています。11月に道の駅「長門峡」で開催されるもみじ祭りでは、利用者と職員で協力して作成した品々を展示販売させていただき、地域とのつながりを、より一層深めていけるよう努めています。「ゆっくり・楽しく・和やかに」一人ひとりが明るく、笑顔に満ち、安心安全な生活ができるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の「生活状況」報告を月1回家族に送付して日々の様子を伝えておられる他、折々に撮った写真を個人ごとにファイルして家族に提供しておられます。開放的な雰囲気づくりに努めておられ、家族や親戚など多数の来訪があり、年1回の家族会にはほぼ全家族が参加しておられます。月ごとの精算報告にも意見欄を設け家族の意見や要望を聞く機会をつくられています。地域の祭りで利用者と一緒に作った作品を展示販売されたり、実家の地域での食事会への参加を支援するなど、事業所と家族が協力して馴染みの関係を継続する支援をしておられます。三食とも事業所で利用者と一緒に食事づくりをしておられ、旬の食材を使って、彩りに配慮され、利用者一人ひとりの状態に合わせた形状の食事を提供しておられ、季節の弁当づくりやおやつ作りなど工夫され、利用者が食事を楽しむことができるよう支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり・楽しく・和やかに、住み慣れた地域で安心安全な生活が出来るように支援します」という理念に基づき実践している。職員は折にふれ意識するようにしているし、ご家族には家族会や毎月の利用者の生活状況の中で伝えている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示して共有している。職員は日頃から理念を意識してケアに取り組み、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや盆踊りなどの行事に利用者と共に参加している。また、食料品や日用品の買い物に地域のスーパーに出かけ近隣の人たちと会話と通じ交流している。	利用者と職員は地元の八幡宮の祭りや案山子まつりに出かけたり、利用者の作品を長門峡もみじ祭りのバザーで販売するなど、地域の人と交流している。保育園児や婦人会、法人他施設利用者などの来訪があり、法人の夏祭りで阿東夢太鼓、神楽、婦人会のバザー、フォークダンスなどの参加者や家族と交流している。近所のスーパーでの買い物時に挨拶を交わしたり、地域の人から差し入れがあるなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内での実践を踏まえて、地域に向けて発信している。地域の行事等のバザーで職員と協力して制作した品々を展示し販売にも参加し地域の人との交流を深め貢献している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解し自己評価は前もって職員に評価表を配布し、職員会議で話し合い取りまとめている。外部評価の結果を踏まえ、出来るところから改善に取り組んでいる。	管理者は評価の意義を職員に説明し、自己評価をするための書類を全職員に配布し、職員が項目を分担して記入して管理者がまとめている。外部評価を受けて職員間で検討し、5項目の目標達成計画を立て、緊急時の連絡体制の見直しや地域行事への参加について検討するなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域より民生委員、老人クラブ会長、婦人会長、他ホームの職員、市職員、家族代表の方々に出席して頂き、行事報告・予定・利用者の生活・身体状況を報告し意見交換の上、要望、改善点をサービス向上に活かしている。	年6回開催し、行事予定、行事報告、利用状況報告、ヒヤリハットなどの報告をして、避難訓練や災害時対応等について話し合っている。行政からの報告や助言を受け、誤薬対策として声出し確認に取り組むなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員の方に参加して頂く他電話やFAX等、都度相談や意見、助言をしてもらい協力関係を築いている。	市担当課とは、運営推進会議の他、電話やファックス、出向いて相談し、助言を得たり、情報交換するなど協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内研修(年2回)において全ての職員が身体拘束について理解しており、抑制や拘束をしない安心安全な自由な暮らしの支援に取り組んでいる。玄関は施錠せず外出を察知した場合は、思いに傾聴し、一緒に出掛けたりして安心して過ごせるよう支援している。	マニュアルがあり、全職員が年2回法人研修で学び正しく理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日頃からスピーチロックについて職員間で話し合い注意しあう他、主治医や法人の看護師に相談してドラッグロックについて検討している。玄関は施錠せず、外出したい利用者と一緒に出かけるなどの工夫をしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修(年2回)において全ての職員が虐待防止について正しく理解しており虐待のないケアに取り組んでいる。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学び、必要・重要性は感じるが、全職員が理解できているかは把握できていない。今後、勉強会を開き、理解に努めたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族と一緒に読み合わせを行い、都度、内容の確認をしながら不安や疑問点について説明をし、理解・納得を得るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書において、相談、苦情受付担当者・責任者・第三者委員、公的機関を明示し苦情処理手続きを定め、施設内に掲示している。	相談、苦情の受付体制や処理手続き、第三者委員などを契約時に家族に説明し、事業所内に掲示して周知している。面会時や家族会、運営推進会議で意見や要望を聞き、月1回、家族に生活状況報告で利用者の様子を伝え、月1回の精算報告に意見を書いてもらうよう工夫している。転倒防止のための居室の家具の配置に関する意見などにすぐ対応しているが、運営に関する意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や日常の業務において、運営に関する意見や提案を出し合い運営に反映させている。	月1回の職員会議で意見や提案を聞く機会を設けている他、日頃から管理者が意見や提案を聞いている。安全に配慮した浴槽の改築や、勝手口の段差の解消、利用者の目線に配慮したソファの位置の変更、室内物干しの設置など、職員の意見や提案を運営に反映させている	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の労働時間や勤務状況を把握し、やりがいを持って働けるよう労働条件や環境条件の整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は新人、中堅、ベテランと段階に応じて参加している。受講後は復命しスキルアップを図っている。法人内研修は新人研修も含め実施している。介護福祉士や介護支援専門員等の資格取得もしている。	外部研修は情報を伝え、段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。参加後は復命を回覧し、職員会議で報告して共有している。法人研修は新人研修の他、年2回身体拘束、食中毒予防、感染症対策などについて実施し、全職員が参加している。管理者が折々に資料をコピーし職員に配布し、働きながら学ぶ機会を提供しているが、内部研修体制が十分であるとはいえない。	・内部研修の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や地域のグループホーム交流会を通じて、意見交換や情報交換を行い、サービスの質の向上に反映するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階でしっかりと情報収集し、本人が求めていること、困っていること、不安なことの理解に努め、安心して生活できるよう関係作りを支援している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることや、不安に感じていることを理解し、信頼関係を築きながら関係作りをしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントや家族との話し合いの中から、必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた支援をするよう努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に調理、洗濯物干し・畳み、掃除など日々の生活を通じ教えていただくことが多く、支えあいながら暮らしを共にする関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に生活状況や身体状況を伝え、話し合いながら、家族と共に本人を支えていく関係の構築に努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	帰宅や外泊等により、今まで通りの関係を保てるように努めている。ドライブや買い物、懐かしい場所や地域の行事に出かけ、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	家族や親族の面会、知人などが気軽に来訪している。馴染みの理容院での散髪やスーパーでの買い物、利用者の地元での食事会への参加、ドライブ(ふるさと探訪)での実家訪問などを支援している。家族の協力を得て、外出、外泊、墓参り、法事への参加、兄弟宅への訪問など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、職員が情報共有して和やかに過ごせるように支援している。互いを気遣い支え合う場面も数多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めている。これまでの関係性が継続するよう心がけ対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを、日々の表情、言動からくみ取るよう心がけ、その人らしい生活が出来るよう希望や意思の把握に努めている。	日々の関わりの中での会話や趣味等をケース記録に記録し、月1回の職員会議で話し合って検討して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は表情や行動から推し量り、職員会議やカンファレンスで本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族からの情報と、これまでの生活歴や生活環境を把握し、生活の支援に役立つよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から、本人の好きな事、出来る事、楽しいと思える事を把握し、有する力が発揮できるよう現状の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の意見、要望を聞き、反映させている。3ヶ月に1回見直し、スタッフで話し合い、現状に即した、よりよい介護計画を作成するように努めている。	本人や家族、主治医ら関係者の意見を参考に、計画作成担当者や職員が月1回のカンファレンスで話し合って介護計画を作成している。利用者の担当職員を中心に月1回モニタリングを行い、3ヶ月ごとに見直しをするとともに、状態に合わせた見直しを行って、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの生活記録に、ケアプランの実践を記入するようにしている。スタッフ間で情報を共有し、計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の心身の状況や生活状況の変化に伴い、ケアプランを見直し、より質の高いサービスが出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で、地域の方々との意見や情報を交換し、地域の中で生活が継続できるよう努めている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所での専門医、協力医療機関の他、家族のご希望があれば通院、受診の介助を行うなど、適切な医療を受けられよう支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医に、受診の支援をしている。毎日「生活状況」に健康状態を記録し、法人看護職員にファックスで連絡して月2回往診を受けている他、専門医の往診を受け、家族と情報を共有しながら、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化が見られる時はバイタルチェックし、法人看護職員に連絡している。適切な診断や必要な治療を受けられるよう密な連携に努めている。又、毎日FAXで夜勤状況を伝えている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者の心身、体調面を医療機関に情報提供し、その後の様子は確認の電話や面会時に情報交換し、退院後の事についても相談や助言を受けられる関係づくりに努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から家族の思いや意向を聴き取り話し合うようにしている。身体状況の低下に伴いその都度説明し、主治医の方からも説明がある。又、事業所のできる事をしっかりと説明し理解を得られるよう話し合っている。	重度化した場合の事業所のできる対応について契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族と話し合い、カンファレンスで職員間で話合って、移設も含め方針を共有している。協力医療機関や法人看護職員と連携し、家族と協力して終末期ケアに取り組み、運営推進会議で報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	法人内での研修はもとより、事業所内でもマニュアルを作成し緊急時の対応に備えている。事故・ヒヤリハット記録をとり原因究明し事故防止に繋げている。実践力を身につける為、年1回救命訓練を行い、年3回救急自主訓練を計画している。	事例が生じた場合は、ヒヤリハット・事故報告書に記録し、管理者が法人運営者に報告している。職員会議で話し合い、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる他、報告書を事業所内に掲示し職員の認識を高めるよう努めている。年1回、消防署の協力を得てAED訓練など救急時の対応について学んでいるが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとはいえない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練と法人内での災害訓練を実施している。消防訓練については夜間を想定した訓練に重点をおいている。消防署との連携、法人内施設、地域の協力体制も築いている。	年2回、消防署の協力を得て、夜間想定を含む消防、通報訓練を、法人施設と連携し利用者も参加して実施している。法人が地域との連絡体制を築き、事業所は法人の宿直との連携を図っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや人格を損ねないよう、自尊心を傷つけないよう言葉かけや対応に気をつけている。記録物は事務所に保管し、個人情報の取り扱いには十分注意している。	法人研修で人格の尊重とプライバシーの確保について学び、各職員は月1回自己チェックシートで自己評価をし、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に取り組んでいる。気がついたところは管理者が指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表すことのできるように支援し、十分に意向を聞きながら自己決定により物事を進めていけるよう働きかけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人ペースの生活を優先し、本人の希望に添えるよう、その日の心身の状態に配慮しながら対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際には、本人のセンスや好みを尊重しながら、おしゃれができるようアドバイスしている。又、希望で馴染みの理美容院に行けるよう支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬のものを取り入れ、3食全て事業所で調理している。野菜を切ったり、盛り付けたり出来る事を一緒にいき、一緒に食事を楽しんでいる。	三食とも事業所で食事づくりをしている。旬の食材を使い、彩に配慮して利用者の状態に合わせたミキサー食等の対応もしている。利用者は、買い物や下ごしらえ、盛り付け、片づけなどを職員と一緒にしている。季節の弁当づくりやおやつづくりをするなど、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量をチェックし、栄養不足や水分不足にならないよう支援している。嫌いなものは好きなものにおきかえたり、食べやすいように形態を変えてみたりして支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、一人ひとりの力に応じ見守りや介助を行い口腔内の清潔保持に努めている。定期的に義歯の消毒も行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表でパターンを把握し声かけや誘導、介助で排泄の失敗を減らすよう支援している。夜間は一人ひとりの状態に即した対応を行い安眠に繋げている。	排泄チェック表を活用してパターンを把握し、声かけのタイミングを工夫して、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し個々の状況に応じた予防に取り組んでいる。10時にはバナナ牛乳を進めている。又、自然に排便があるよう運動(体操)の働きかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	日曜日以外は希望すれば毎日でも入浴できる。時間帯は14時から16時となり、ゆっくりと入浴できるよう支援している。	14時から16時過ぎまで、希望に合わせて日曜日を除いた毎日、入浴できる。利用者の状態に合わせてシャワー浴や清拭、部分浴などの支援をしている。入浴したくない人には職員が交代したり声かけのタイミングの工夫をしている。入浴は安全に配慮し、職員とゆっくり会話を楽しみながら入浴できるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整え、夜間は安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や変更があった場合や、本人の状態に変化が見られる時は記録を録り、医療との連携が図れるようにしている。又、服薬管理票で、一人ひとりの服薬状況を管理している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯物畳み、洗濯物干し等の活躍できる場面を作り、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう一人ひとりを支援している。	バレンタインのチョコづくり、豆まき、誕生会、月1回の生け花、家族会などの行事、貼り絵、ぬり絵、豆選り、お手玉、歌、カラオケ、新聞の読み聞かせ、回想法、カルタ、風船バレー、手足の体操、雑巾縫い、モップ拭き、掃き掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、展示販売品の作成など、一人ひとりの楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張り合いのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添いながら、地域の行事や買い物等、日常的に外出支援に取り組んでいる。家族の協力を得て墓参りなどにも出かけられるよう支援している。	スーパーへの買い物や散歩、法人行事への参加など日常的に外出する他、季節の花見(リンゴ、つつじ、芝桜、紫陽花)や梅もぎ、地域交流センターの夏祭り、農業祭、長門峡もみじ祭、ドライブ(津和野稲荷、ふるさと探訪など)、地元の食事会、敬老会、家族の協力を得ての外出、外泊、墓参りなど外出の支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、買い物の時はお金を所持し使えるように支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添いながら出来るかぎり支援している。手作り年賀状にご自分で書いてもらうよう支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は日差しがよく差し込み明るく、利用者の作品や季節感を感じることで花や写真で飾り付けられ、居心地の良い雰囲気をもたせている。居間は床暖房が施工してあり、温かく快適に過ごすことができる。	玄関や共用の空間のいたるところに季節の花を飾り、利用者が食堂のテーブルで調理の下ごしらえをしたり、居間の大型テレビの前のソファでくつろいだり、ゆったりと居心地よく過ごせるよう工夫をしている。室内は明るく、温度や湿度、換気に配慮して快適に保たれ、ウッドデッキからは恵まれた自然環境を楽しむことができる。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性に配慮し、丸テーブルのコーナーや長椅子やソファのコーナーを設け、思い思いに過ごせるように居場所の工夫をしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス・ベッド・椅子やテーブル等使い慣れた物や好みの物を持ち込み、本人が落ち着ける空間を造り出し、快適な生活が送れるよう支援している。	ベット、タンス、椅子、テレビ、衣類、日用品など使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真、利用者の作品、カレンダー、生け花などを飾って本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて住環境(手すり、浴槽、椅子等)を見直し、安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう工夫し支援している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム阿東園

作成日: 平成 25 年 12 月 26 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	28	個別の日々の記録がケアプランに即して記入されていない事があり、介護計画の見直しに活かされていないことがある。	個別の日々の記録に、ケアプランに対してどのような実践がなされたかを明確に記入し、介護計画の見直しに活かしていく。	個別の記録ケースに、ケアプランをセットしておき、確認しながら記入する。	1ヵ月
2	35	急変や事故発生時に備えての応急手当や初期対応の訓練を法人内の研修や、消防署の協力を得て定期的に行っているが、実践力が身に付いていないと思われる。	確実、冷静に対応できるように実践力を身につける。	毎月の話し合いの時、訓練を実施する。外部研修参加後は、復命を回覧、報告し、全職員に情報が行き渡るようにする。	6ヶ月
3	14	外部研修、法人内研修の他、事業所としての職員の資質の向上に向けての内部研修が不十分と思われる。	新人、中堅、ベテランが、互いに助言し合いし資質の向上を図る。	職員間で、ケアの気付きを助言し合い、働きながらトレーニングを重ねる。他の法人とタイアップすることも検討する。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。